

第1回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 審議会名 | 第1回安曇野市行政改革推進委員会 |
| 2 | 日 時 | 平成18年5月23日 午前9時00分から午前10時30分まで |
| 3 | 会 場 | 堀金総合支所 301・302 会議室 |
| 4 | 出席者 | 浅川委員、小口委員、尾台委員、唐澤委員、唐沢委員、佐々木委員、
白澤委員、花村委員、林委員、平倉委員、牛山委員、加々美委員、
小松委員 |
| 5 | 市側出席者 | 平林市長、黒岩総務部長、行政改革推進室大内室長、堀内係長、平林係長 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 1人 記者 4人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成18年6月2日 |

協 議 事 項 等

1 会議概要

- (1) 開会 (黒岩総務部長)
- (2) 委嘱書の交付
- (3) 自己紹介(事務局・委員自己紹介)
- (4) 会長及び副会長の選出
会 長：白澤亀内委員
副会長：浅川文彬委員
- (5) 市長あいさつ(平林市長)
- (6) 諮問 (諮問文：別紙)
- (7) 会長・副会長あいさつ (白澤会長・浅川副会長あいさつ)
- (8) 議事
安曇野市行政改革大綱並びに集中改革プランについて
今後の進め方について
- (9) その他
- (10) 閉 会 (白澤会長)

2 審議概要

- 安曇野市行政改革大綱並びに集中改革プランについて(事務局より説明)
今後の進め方について(事務局より説明)
会長：今後の会議開催の時間帯等についてご要望等あれば。
委員：夜の時間帯での開催は可能か。
委員：夜の場合、他の会議などと重なってしまう可能性が高い。
委員：限られた時間の中で、できるだけ多くの審議時間を確保するため、資料の事前配布を心がけていただき、会議中の資料説明に費やす時間を短くしましょう。
委員：会議は午後3時から開催し、あまり長くない範囲で延長するということではどうでしょうか。

会長：会議の開始時刻は、午後3時とします。事務局では、今後の開催日程を決めていただき、出来るだけ早く周知してください。

会長：この他、委員会の進め方についてご質問・ご要望等ございますか。

委員：資料は、出来るだけシンプルにしてください、問題点や課題を分かりやすく示していただき、テーマがシンボライズでき、分かりやすく審議できるように方向付けしていただきたい。

委員：出来るだけ焦点を絞って審議できるよう資料作成等にも配慮いただきたい。また、欠席する委員については、事前に意見を提出できるよう配慮してほしい。

委員：審議に当たっての判断材料として、詳細なデータを示してほしい。データに基づいた発言は、理解しやすいし、説得力もある。

委員：安曇野市のまちづくりの基本となるものは新市建設計画である。そこで、提示いただく資料については、合併協議での合意事項を併記し、対比できるような資料にしてほしい。

委員：今後の審議に当たっては、安曇野市の方向性、ビジョンを明確に示してほしい。

委員：社会経済情勢の変化に対応した簡素にして効率的な市政の実現に向け必要な事項を調査・審議するのが本委員会の任務であるので、このことに焦点を絞り、審議事項をあまり広げない様にすることが大事である。そうでないと、何回会議をやっても終わらないように思う。

会長：他に何かございますか。

事務局：会議録の作成、会議概要のホームページへの掲載について説明。

会長：以上をもちまして本日の会議を終了します。

18 行政 B イ - 5 第 10 号
平成 18 年 5 月 23 日

安曇野市行政改革推進委員会会長 様

安曇野市長 平 林 伊 三 郎

諮 問 書

下記の事項について、安曇野市行政改革推進委員会設置条例第 2 条に基づき諮問いたします。

記

『安曇野市まちづくり計画(新市建設計画)』を推進するための行財政改革大綱策定における
6 項目の改革内容について

市民との協働による市政の推進

健全な財政基盤の確立

職員管理・給与の適正化

業務の効率化

スリムで柔軟な組織・人事体制の構築

公共施設の効果的な利用

諮 問 理 由

安曇野市が誕生して約半年、人口 10 万人の新たなまちづくりに向けた取り組みが着々と進められています。その一方で、少子高齢社会の進行とそれに伴う人口減少時代の到来など、地方自治体を取り巻く環境は大変に厳しい情勢にあります。

かつてのような右肩上がりの成長を望むことができない経済情勢のもとで、さまざまな分野での構造改革や規制緩和、地方分権の流れを加速させる「三位一体の改革」が進む中、一方では、市民ニーズや地域の課題は多様化しております。

このような厳しい環境の中で、市民主権のまちづくりを推進していくためには、これまで以上に行政能力の向上と、行政改革への積極的な取り組みが求められるとともに、地域の力、個性や創造性の発揮がこれからの時代を乗り切っていくための鍵となっています。

そこで、「市民一人ひとりが豊かさやゆとりを実感でき、あらためて合併してよかった」と思えるような地域社会の形成を図るため、行政の果たす役割は益々重要になってきます。そして、合併に際しての住民の皆さんとの約束事項とも言うべき新市建設計画を着実に実現し、我々が住む安曇野の自然・産業・歴史・文化など個性ある資源を活かし、市民との協働による活力あるまちづくりを進めていかなければなりません。

本市の合併は、関係 5 町村による新設合併であったことから、合併協議の段階から、合併を「行財政運営見直しの好機」と捉え、先例や慣例にとらわれることなく事務事業や各種手当等の見直しを行ってきましたが、今後も合併による行財政改革効果を確実に生み出していくことが不可欠であります。

これらのことから、自立した自治体として、安曇野市最初の行財政改革大綱並び行政経営改革プランを策定し、簡素で効率的な行政運営の実現と真に必要なサービスの継続・充実を図る必要があります。

以上のような認識の下、中長期的な展望に立った安曇野市の行財政のあり方について、その基本的な方向性を求めるものであります。